

令和7(2025)年度事業計画

公益財団法人神奈川芸術文化財団

I 第4期指定管理（令和3年度～令和7年度）における財団の運営方針

【財団の「理念」と3つの「視点」】

1 財団の「理念」

私たちは、その想像力と創造性を活用し、芸術文化の価値を高めます。

私たちは、芸術文化の力で、地域に生きる人々の心を豊かにし、幸福な社会の実現に貢献します。

2 3つの「視点」（財団の「理念」に次の3つの視点を持って向きあっています。）

視点1「革新性」：革新的な思考や活動を通じて、新しい価値とさまざまなあり方を認め合う、豊かで柔軟な社会を目指します。

視点2「国際性」：国際的な創造発信を行ってきた「神奈川」という地域の特性を発揮します。

視点3「多様性」：基本的人権を尊重し、平和を希求する社会の実現に寄与します。

【財団の4つのミッション】（上記、「理念」のもとに定めた4つのミッション）

1 ミッション「創造に挑む」

- ・芸術文化の価値の追求
- ・多様な価値観や美意識、表現の自由に基づく作品の創造
- ・古典作品の再発見と伝統の継承
- ・劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（平成24年法律第49号）（以下「劇場法」という。）が示す公共劇場のモデルを体現

2 ミッション「感動を分かち合う」

- ・自宅でも職場・学校でもない、人びとに開かれた「第3の場所」としての文化施設の実現
- ・豊かな芸術体験の提供、多様な芸術文化の紹介
- ・広域ネットワークの構築
- ・神奈川県内の地域文化の活性化と偏在の解消
- ・文化施設の維持・運営を通し、あらゆる人々の鑑賞や創造活動を支援

3 ミッション「つねに考える」

- ・新たな行動に結びつく公正で適正な評価と組織整備
- ・社会と芸術、時代の多面的な検証
- ・芸術文化の公共性や可能性の考察
- ・文化施設の公共性や可能性の考察

4 ミッション「未来につなぐ」

- ・芸術文化の担い手の育成
- ・次世代への継承
- ・創造性やコミュニケーション力を養う教育の拠点

【第4期指定管理における重点テーマと主な取組】

- 1 「各館のブランディングの強化と3館一体の推進」
各館それぞれの個性・特性をより強く打ち出した企画立案
事業部長（音楽事業部長・演劇事業部長）の設置
総合調整会議を設置（施設運営における水準の平準化と更なる向上）
- 2 「あらゆる人々へ開かれた場」
「社会連携ポータル」部門（※）を令和3年度に立ち上げ
利用者サービスのユニバーサルデザイン化の推進や、障がい者の鑑賞サポートの充実
- 3 「地域との連携」の強化～「繋^{つな}がりの実現」
「社会連携ポータル」部門（※）を令和3年度に立ち上げ
県内巡回オペラの実施や、バックステージツアーの充実
- 4 「今後予測される厳しい財政環境への対応」
専門性の高い職員を3館に共通する部門に配するなどの効率的な人員配置
長期貸館の誘致などによる、利用料収入の確保

※ 「社会連携ポータル」部門とは

これまで、各館でそれぞれに取り組んできた

- ① 専門人材育成プログラム
- ② 学校教育へのアプローチ（エデュケーションアプローチ）
- ③ あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ
- ④ 地域との連携を強化する機能（県域ネットワークプログラム）

について、これまで培った知識や経験といった機能を「社会連携ポータル」部門に集約することで、その機能をより強化し、3館にとっても、また県域の文化施設や他の団体からも、社会と芸術をつなげる窓口＝ポータルとなるよう機能させていく。

また、社会連携ポータル部門では、様々な障がいのある方々、県内の在住外国人、貧困や社会的養育のもとにある子ども、高齢者（シニア）を重点的に取り組むべき対象とする。

【第4期指定管理における3館の役割と方向性】

1 神奈川県民ホール

○担うべき役割

- ・神奈川県民ホール（以下「県民ホール」という。）の県内最大規模のキャパシティと多目的ホールの特性や良好な立地条件を生かしながら、主催・共催事業や貸館事業を通じて、県民の方々からの多様なニーズに応え、多彩で良質な芸術鑑賞の機会を提供すること。
- ・大ホール、小ホール、ギャラリー、会議室などを最適な環境で提供し、県民の方々の文化芸術活動の活性化に貢献すること。
- ・開館後45年を経過した老朽化の進行に適切に対応することで、今後も安全で安心感のある、良好な施設環境を維持し、県民の方々に提供していくこと。

○取組の方向性

- ・主催・共催事業のバラエティと質の維持・向上を図りつつ、貸館事業との適切なバランスを確保し、高い利用率を維持する。
- ・近隣地域の劇場整備の進捗による利用需要の変化に柔軟に対応していく。
- ・ロビーや正面広場等を活用したにぎわいを創り出す。

※なお、県民ホールは令和7年4月より休館となる。

2 KAAT 神奈川芸術劇場

○担うべき役割

- ・KAAT 神奈川芸術劇場（以下「芸術劇場」という。）に対する県民の方々の多様な鑑賞ニーズに応え、かつ高度な舞台創造機能やリソース（人材、ノウハウなど）を生かしたラインナップの実現と、将来の舞台芸術を担う専門人材を育成していくこと。
- ・中・長期間公演による大きな収入を財源とした大規模な創作や上演を実現していくこと。
- ・劇場法に則った創造型劇場としての運営や、地域の拠点劇場のモデルを体現する先進事例への取組を続けていくこと。

○取組の方向性

- ・収入の維持・向上のために、安定的なロングラン貸館の利用を確保していく。
- ・舞台技術に関する創造活動及び安全管理のノウハウを、3館全体に展開し共有する。
- ・NHK 横浜放送局とも連携し、アトリウムににぎわいを創り出すとともに、劇場施設自体の魅力を発信する取組を開始する。
- ・実演家・クリエイター・スタッフ等の創造性を養い、その成果を事業実施や企画立案に反映させる業務環境を作る。

3 神奈川県立音楽堂

○担うべき役割

- ・神奈川県立音楽堂（以下「音楽堂」という。）の音楽ホールとしての歴史性を継承する、独自性の高い演奏会を実施すること。
- ・優れた音響特性や建物の魅力を生かすジャンルの選定（クラシック音楽の中でも室内楽や室内オペラなど。またモダニズム建築を生かせるパフォーマンスや現代的な演目など）。
- ・県民の方々が自ら行う文化活動のために、利用したくなる魅力を持つ「音楽ホール」であり続

けること。

○取組の方向性

- ・音楽堂としての個性を大切にした音楽事業を展開する。
- ・文化財的価値のある建築であり、同時に現役の音楽ホールとして稼働中の施設を保全していくノウハウを確立する。
- ・これまでと同様の高い利用率を維持しながら、施設の老朽化に適切に対応していく。
- ・主催・共催事業のバラエティと質の維持・向上を図りつつ、貸館事業との適切なバランスを確保する。



県民ホール



芸術劇場



音楽堂

※次頁以降の凡例（**公1**、**収1**、**収2**、及び**法人**）は、公益認定及び会計上の分類を示す。

◆公益目的事業

公1 芸術文化事業及びそのための施設運営に関する事業、芸術文化の情報収集提供、調査研究及び人材育成

◆収益事業

収1 駐車場の運営に関する事業

収2 大会、集会、会議等芸術文化以外の施設運営に関する事業

◆法人会計

法人 法人の運営に関すること

II 令和7年度における財団の運営方針

財団は、先に掲げた理念を実現するため、4つのミッションを柱とした芸術文化事業及び施設運営・利用者サービス、本部事業・その他事業を展開し、多くの県民に上質で多彩な芸術文化プログラムを提供することによって、広く県域において創造性や活力が育まれることを目指していく。また、令和8年度からの次期指定管理者選定が非公募で行われるので、県民ホールが休館中であっても、神奈川の文化の創造と発展に寄与することができる充実した内容の提案書を作成するなど、当財団の指定獲得に向けて全力を尽くすとともに、再整備される県民ホール（本館）の早期開館を県に働きかけていく。

1 芸術文化事業 公1

(1) 県民ホール

昭和50年の開館当初から有数の大型文化施設・多目的ホールとして神奈川県内の芸術文化振興を担ってきた神奈川県民ホールは令和7年4月から休館するが、休館後も、これまでの県民ホールの実績を活かし、財団の理念とミッションを踏まえ、神奈川県内の文化行政との連携も図りながら上質でバラエティ豊かな事業を神奈川県域全体で展開する。

休館に伴う県民の芸術文化の活動・鑑賞機会の減少を補い、地域の文化資源の活用、文化振興の環境整備等への取組の充実を図るため、県域全体を大きな活動場所と見立て、県民とアーティストを繋ぎながら、地域と共に創造し、県域に波及効果をもたらす活動を行う。

神奈川県には、規模や特性が様々な33市町村がある。それらの地域特性を鑑み、年齢や障害の有無等にかかわらず、あらゆる人が芸術文化に親しむ機会を得られるよう、また、上演会場は劇場・音楽堂等に限らず、地域コミュニティの中核となる場所での実施も想定して展開する。

組織内の人材確保及び育成にも力をいれ、長期に及ぶことが予想される休館期間を通して、地域と共に活動を積み重ねることで、再開後の県民ホールと地域・県民をつなぐ「ソフト先行事業」的なものとなるよう取り組んでいく。

■ミッション「創造に挑む」[3事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
11月8日(土) 11月9日(日)	藤沢市民会館	県内オペラ展開シリーズ Vol. 1 モーツァルト オペラ「羊飼いの王様」 演奏会形式・原語上演	これまで県民ホールで上演され続けたオペラ制作のノウハウを継承し、県域展開オペラシリーズを立ち上げる。 シリーズ第1回目は、数々の名オペラを作曲したモーツァルトが19歳の時に作曲したオペラ「羊飼いの王様」を上演。初演から250年という記念の年に、初演時同様の演奏会形式により、日本を代表するオペラ歌手、森麻季、砂川涼子ら、また実力派若手歌手、小堀勇介らを招聘

			<p>する。オーケストラは神奈川フィルハーモニー管弦楽団、指揮は藤沢市民オペラ芸術監督の園田隆一郎。</p> <p>また、県内で関連事業として講座やトーク付きコンサートも実施し、オペラ公演の興味を深める場を創出する。</p>
11月予定	<p>※実施予定施設 三浦市民ホール 葉山町福祉文化会館 他</p>	<p>C×C 作曲家が作曲家を訪ねる旅シリーズ C×JAZZ vol. 1</p>	<p>小ホール事業シリーズとして行ってきた「C×」(シー・バイ)を体現するメイン企画。「C」はComposer、Classic、Contemporaryを意味する。「C×C(シー・バイ・シー)」は、過去の著名な作曲家と現代の作曲家を引き逢わせ、歴史的遺産を顧みつつ、未来へとつながる創造を模索する室内楽シリーズ。</p> <p>令和7年度は、これまでに取り上げてないジャズをテーマに、今最も注目されている横浜出身の若手ジャズ作曲家でありアーティストの壺阪健登を迎え、著名ジャズ作曲家と対峙する。トリオ編成による県内3施設でジャズ音楽の魅力をお届けする。</p>
調整中	<p>※実施予定施設 真鶴町 他</p>	企画展「浅田政志展」	<p>「家族」と「記念写真」をテーマに市井の方と向き合い続ける写真家・浅田政志による、神奈川県内で撮り下ろした作品による個展を、県内各地で開催。会場選定も地元自治体等と協力し行う。</p>

■ミッション「感動を分かち合う」[6事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
4月19日(土) 4月20日(日)	神奈川県立青少年センター	リーディングドラマ 「不思議駄菓子屋 銭天堂」	<p>横浜市出身の作家・廣嶋玲子氏原作の児童文学小説「銭天堂」を舞台化し県内公演を行う。親子で親しみやすい題材を活用し、幅広い県民に劇場での愉しみを体感してもらう公演として実施。初共演となる、白石加代子、大原櫻子をキャスティング。</p> <p>神奈川県内では他に、相模原市、平塚市、横浜市鶴見区で上演し、県外での公演も展開。</p>

11月22日(土)	相模女子大学グリーンホール 大ホール	The Sixteen 神奈川公演	<p>ルネサンス、バロック、近現代の合唱音楽を歌ってきた世界最高のアンサンブルの一つで、世界中で非常に高い評価を受けている「ザ・シックスティーン」を21年ぶりに招聘する。</p> <p>1979年創立し、90枚を超える録音は、グラモフォン賞、グランプリ・デュ・ディスク、グラミー賞ノミネートなど数々の栄光に包まれた世界屈指の合唱団。パレストリーナ生誕500年を記念し、500年に一度の歌声を聞かせる。</p>
8月11日(月祝) 8月24日(日)	伊勢原市民文化会館 南足柄市文化会館	神奈川フィルハーモニー管弦楽団 スペシャル・コンサート	<p>神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏によるスペシャル・コンサート。クラシック音楽だけではなく、誰もが聴きなじみの名曲をプログラミングし、三世代の幅広い年齢層が、オーケストラのハーモニーを楽しんでいただく機会として実施する。</p>
調整中	※実施予定施設 横浜市内教会など	C×Organ オルガン・コンサート・シリーズ 神奈川のパイプオルガンを訪ねて	<p>小ホール事業シリーズとして行ってきた「C×」(シー・バイ)シリーズに沿って、オルガン・アドバイザー中田恵子の監修により実施する「C×Organ(シー・バイ・オルガン)」シリーズ。</p> <p>県民ホール50年の歴史と伝統を誇るオルガン事業を継承し、県内のオルガンのある施設や教会でコンサートを実施。オルガン音楽の普及を図り、県内の広域に展開し、オルガンの魅力を紹介していく。</p>
令和8年 3月20日(金祝)	横浜みなとみらいホール 小ホール	C×Baroque 「大塚直哉が誘うバロックの世界 Vol. 5」 ～バロックの申し子たちの成長とその先	<p>これまで小ホール事業シリーズとして行ってきた「C×」(シー・バイ)シリーズに沿って、バロック音楽の第一人者である大塚直哉(チェンバロ)の出演・監修のもとバロック音楽の魅力を紹介する「C×Baroque(シー・バイ・バロック)」。令和7年度は、シリーズ最終回として、バロック期のさまざまな“コンチェルト”そして“ソナタ”を取り上げる。</p>

調整中	※実施予定施設 県内市町数カ所	音楽絵本シリーズ	いつも読んでいた絵本を、クラシック音楽とともに楽しむ企画。巨大スクリーンに映し出された絵と音楽とともに、国内外のさまざまな伝承・お話などを披露。物語にピッタリ沿った音楽を聴きながら、いつも読んでいた絵本の世界のイメージーションが膨らみ、子供から大人まで楽しめる新企画。
-----	--------------------	----------	--

■ミッション「つねに考える」[2事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
調整中	※実施予定施設 県内市町4カ所	KANAGAWA ロックサーキット 「語り継ぐロックの伝説」～ロック小僧のMUSIC LIFE Vol.～Vol. 4	数ある音楽ジャンルの中で豊かな歴史を築き、大作曲家や名曲の数々を生み出してきた「ロック音楽」の企画を新たに実施する。 ロックにおける多くのミュージックシーンを発信してきた神奈川から、これらを体系的に学び、味わう講座を開催。神奈川ゆかりの音楽家も講師に迎え、ロック黎明期から現在に至る代表的なミュージシャンや楽曲について、初心者から長年のファンまでが楽しめるエピソードを交え、地域のニーズに合わせた内容で展開する。
11月21日(金)	海老名市文化会館 サロン	舞台芸術講座 The Sixteenによる、合唱指導者向けのワークショップ <社会連携ポータル事業>	舞台芸術への扉を開く講座シリーズ。社会連携ポータル部門と協働し、広い観点から音楽芸術等への理解と共感を深める企画を県内で実施。
11月予定	※実施予定施設 三浦市民ホール 葉山町福祉文化会館 他	C×C 作曲家が作曲家を訪ねる旅シリーズ C×JAZZ vol. 1	(再掲)

■ミッション「未来につなぐ」[4事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
令和8年 1月	鎌倉芸術館 ギャラリー	神奈川県美術展 60周年 特別企画展	<p>県民ホールギャラリー休館に際し、昭和40年の創設以来、新人作家の育成と美術文化の向上に努めてきた公募展の実施については1年休止し、今後の発展的再開にむけて委員会を発足し検討する。</p> <p>また、神奈川県美術展60周年の節目にあたるため、これまでの受賞者から活躍中の若手作家を選抜し、鎌倉芸術館にて企画展を開催する。同時に県展の展望について語るトークイベントなども開催予定。</p>
調整中	リニア神奈川県駅 (仮称) 建設予定 地内	リニア駅活用事業	橋本駅前に建設中のリニア中央新幹線駅工事現場を文化芸術の場として活用し、にぎわいの創出となる事業を実施。
調整中	未定	県民ホール人材育成事業 ＜社会連携ポータル事業＞	社会連携ポータル部門と協働し、県内の青少年や大学と連携した人材育成プログラム等も実施。
調整中	横浜市 他1か所	社会教育との協働事業 ＜社会連携ポータル事業＞	フリースクールや市民活動支援センター等との協働で、普段音楽に触れあう機会の少ない方々へのアプローチを社会連携ポータル部門との協働で立ち上げる。本年は横浜市内ともう1か所にての開催を予定。

(2) 芸術劇場

芸術監督長塚圭史のもと、年間を通じたプログラムや劇場広報を通じて、高い芸術性を担保しながら、専門人材、劇場設備・機構、劇場間ネットワーク、ファンドレイズ等のリソースを活用し、それらを積極的に育成・展開・活用する企画を立て、安定した事業運営を目指す。

前年度に引き続き、劇場・財団のミッションを踏まえた多様なプログラムを提供する枠組みとして、4月～8月を「プレシーズン」、9月～3月を「メインシーズン」と2つに分け、活動にリズム感を持たせ、より県民に親しまれる劇場を目指す。

4月～8月の「プレシーズン」は、ひらかれた劇場として県民の方々とつながることを目指し、舞台に触れることの少ない方々に、劇場の存在を知っていただき、また観客となる体験を提供することを主眼として企画していく。

9月～3月の「メインシーズン」には、毎年度テーマを掲げ、時代や劇場の動性を表現しながら、芸術監督演出作品をはじめ、そのテーマから想起される多彩な作品をプログラムする。

令和7年度は、『虹～Rainbow』をシーズンタイトルとして、多様な価値観、美意識、そして舞台芸術の喜びを県民に提供していく。

『虹～Rainbow』

令和7年度のメインシーズンのタイトルは「虹」。「レインボウ」と読んでください。太陽光が空気中の水滴で屈折し、反射することによって生み出される「虹」は自然現象です。憎しみの連鎖を止めることの出来ない我々人間の生きるこの地球の皮肉なほどの美しさを示すシンボルでもあります。「虹」は厳しい試練の後、希望の象徴として現れ、人々の心を軽やかにし、時に勇気づけます。そして「虹」は多様な人々を繋ぎ、越境する七色の架け橋です。急速な変化を続ける時代から目を背けず、前を向き、世界の煌めきを捉えるシーズン『虹～レインボウ～』にご期待ください。

長塚圭史

<プレシーズン>

5～6月	ホール	ミュージカル「LAZARUS」 作：エンダ・ウォルシュ 演出：白井晃
5～6月	アトリウム	アトリウム企画（仮）
7月	大スタジオ	KAAT×TJP 国際共同製作作品 「ダンスマラソンエクスプレス～横浜→花巻」 振付・演出：伊藤郁女
7月	大スタジオ	KAAT キッズ・プログラム 2025「わたしたちをつなぐたび」 演出：大池容子 SPAC（静岡県舞台芸術センター）作品同時上演

<メインシーズン> シーズンタイトル『虹～Rainbow』

9～10月	ホール	「ドン・キホーテ（仮）」 作・演出：ケラリーノ・サンドロヴィッチ
9～10月	中スタジオ	KAAT EXHIBITION 2025 「大小島真木展」
10月	ホール	「Carcaça（カルカサ）」 マルコ・ダ・シルバ・フェレイラ振付
11月	中スタジオ	KAAT × 城山羊の会「新作」 作・演出：山内ケンジ
11月	ホール	（共催）海外ダンス招聘公演 NDT 2
12月	複数施設	「YPAM - 横浜国際舞台芸術ミーティング 2024」
1月	アトリウム	KAAT 開館 15 周年企画
2月	大スタジオ	「未練の幽霊と怪物」 作・演出：岡田利規
2～3月	中スタジオ	KAAT カナガワ・ツアー・プロジェクト第三弾 作：長塚圭史 演出：長塚圭史／大澤遊

■ミッション「創造に挑む」[5事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
5月中旬～ 6月中旬	ホール	ミュージカル 「LAZARUS」	(プレシーズン) 伝説のロック・ミュージシャン、デヴィッド・ボウイがプロデュースしたことが話題を呼び、世界各国で上演されている大ヒットミュージカルを、白井晃による演出で日本初演する。脚本は、KAAT では舞台「バリーターク」（平成30年）、「アーリントン」（令和3年）で紹介してきたアイルランドの鬼才・エンダ・ウォルシュが手掛けており、世界中で愛される音楽と実験的な表現が融合した唯一無二のミュージカルの創作を目指す。大型のミュージカルを幅広い観客層に向けて届けることを目的に、民間の制作会社と共同で事業を実施する。

<p>9月中旬 ～10月上旬</p>	<p>ホール</p>	<p>「ドン・キホーテ (仮)」</p>	<p>(メインシーズン) アウトサイダーにしてトップランナーという、特異なポジションで日本演劇界を席卷し続けるケラリーノ・サンドロヴィッチ (KERA) 作・演出による新作を上演。KAAT での創作は、「ドクターホフマンのサナトリウム」(令和元年) 以来の2度目となり、約6年ぶりのKAAT で書き下ろし新作公演となる。題材は、セルバンテスの小説「ドン・キホーテ」をモチーフとした冒険物語で、遍歴の騎士(ドン・キホーテ) と思い込んだ年老いた郷土を始めとしたおなじみの登場人物を原作から受け継ぐ形でKERA 独自の物語が紡がれる。高い創造性を備えた人気作家による話題作を上演し、県民に演劇の喜びを提供する。国内各地のツアー公演を予定している。</p>
<p>9月中旬 ～10月中旬</p>	<p>中スタジオ</p>	<p>KAAT EXHIBITION 2025 「大小島真木展」</p>	<p>(メインシーズン) 毎年開催している劇場空間と現代美術の融合による新しい表現を生み出す展覧会 KAAT EXHIBITION。令和7年度は、循環していく生命をテーマに絵画、立体、映像、インスタレーションなど多彩な表現方法で展開、KAAT では、キッズ・プログラム「ククノチ テクテク マナツノ ボウケン」(令和3年・令和4年) で舞台美術を手掛けるなど美術の枠を超え活動を広げる現代美術作家・大小島真木の個展を実施する。複雑に絡み合う自然界の姿や、生命が無限に循環してゆくさまを、多彩な表現方法で展開、旺盛な表現活動で現代美術界で大きな注目を集める大小島真木のインスタレーションにより独自の鑑賞体験を提供し、施設来場者層の拡大を目指す。また、その展示空間を使ったパフォーマンスも計画し、多様な芸術の融合を目指す。</p>
<p>11月中旬 ～11月下旬</p>	<p>中スタジオ</p>	<p>KAAT × 城山羊の 会 「新作」</p>	<p>(メインシーズン) 第59回岸田國土戯曲賞を受賞、劇団「城山羊の会」を主宰する劇作家・演出家、山内ケンジによる新作戯曲書き下ろし公演。 人間関係を鋭くそして軽妙に描き切る山内ケンジの持ち味を活かした大人の会話劇を創</p>

			作し、県民に多彩な演劇の魅力をお届け。KAATで令和4年に上演した「温暖化の秋」の好評を受け、2度目の創作上演となる。
令和8年 2月	大スタジオ	「未練の幽霊と怪物」	(メインシーズン) 現代演劇の言葉と身体、空間がおりなす可能性を開拓し、国際的に活躍する劇作家・演出家の岡田利規が、現存する世界最古の舞台芸術「能」に触発された音楽劇を創作する。令和3年にKAATで上演した『未練の幽霊と怪物—「挫波」「敦賀」—』は、読売演劇大賞優秀賞、鶴屋南北戯曲賞や読売文学賞を受賞するなど非常に高い評価を受け、上演直後からさらなる展開が期待されているシリーズであり、長い準備期間を経て、満を持して続編を創作する。国内各地のツアー公演を予定している。

■ミッション「感動を分かち合う」[7事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
5～6月	アトリウム	アトリウム企画(仮)	(プレシーズン) ひらかれた劇場を目指し、舞台芸術鑑賞体験の入口となるようなパフォーマンス作品をアトリウムで複数週にわたり週末ごとに無料上演する。舞台美術家による想像力を喚起するような空間で、ダンスや音楽、身体表現など気軽に楽しめる演目をプログラムし、街で同時期に実施されているイベントなどとも連携しながら、外への広がりをつくりながらアトリウムを運営し、施設の価値を高めていくこと意識していく。
7月下旬	大スタジオ	KAATキッズ・プログラム2025	(プレシーズン) 例年開催している、おとなも子どもも楽しめるKAATキッズ・プログラムを実施する。小さな少女が自らの出生をめぐる旅に出る姿を情感豊かに描き、全国学校図書館協議会が優れた絵本として選定する「2024えほん50」にも選ばれた絵本「わたしたちたちをつなぐたび」を題材に、新進気鋭の演出家・大池容子が演出する新作を上演。令和7年度は新作創作に加え、新たな試みとしてSPAC-静岡県舞台

			<p>芸術センターの作品を同時上演、その後KAATの作品もSPACで上演するという作品エクステンジ型「キッズ・フェスティバル」を企画する。この試みは、公立劇場のあるべき姿を考えながら、質の高い舞台芸術作品の流通構造の構築と継続を目指してSPACと共同で企画するもの。このキッズ・フェスティバルを端緒に、多様な舞台芸術を制作するノウハウの共有、劇場間ネットワークの強化、また上演機会を互いに確保することで、上演作品の多様化と収入の確保、観客層の拡大を目指す。</p>
11月	ホール	海外ダンス招聘公演 NDT 2 (共催)	<p>(メインシーズン) 愛知県芸術劇場、Dance Base Yokohamaとの連携により実施する。令和6年度県民ホールでのNDT1招聘に続く取り組み。海外の優れたアーティストの作品を県民に提供する機会となる。</p>
令和8年 2月～3月	中スタジオ	KAAT カナガワ・ツアー・プロジェクト第三弾 「冒険者たち～JOURNEY TO THE WEST」 「冒険者たちシリーズ最新作」2演目連続上演	<p>(メインシーズン) KAAT芸術監督・長塚圭史がくひらかれた劇場>を目指し、より多くの県民に向けて、KAATで創作した作品を携え神奈川県内各地を巡演するプロジェクトの第三弾。誰もが親しむアジアの古典『西遊記』のキャラクター達が、神奈川県内の伝説や昔話の世界に迷い込む冒険譚を長塚圭史が書き下ろし、県内6カ所に飛び出した第一弾の「冒険者たち」待望の再演と、冒険者たちシリーズ2作目となる書き下ろし新作を連続上演。舞台芸術の魅力を県民に感じていただくこと、また、県内各市町村の文化施設がKAATをハブとして連携し、より緊密なネットワークを築くきっかけとなることを目指す。</p>
通年	アトリウム 他	フレンドシッププログラム	<p>年間を通じて、街の一部である劇場、街に飛び出す劇場、またあらゆる人々に開かれた劇場を目指し、演劇・音楽・ダンス・現代美術・トークイベントなど多様な催しを、アトリウムを活用し開催する。また、劇場を身近に感じていただき、劇場の魅力を知っていただくために、定期的にバックステージツアーを開催する。</p>

通年	複数施設	提携事業	<p>KAAT の劇場イメージを向上させる上質な演目や集客力で地域の賑わいを創り出す演目を提携公演として誘致し、主催公演とあわせて KAAT 全体の公演ラインナップを充実させる。</p> <p>5月 神奈川県演劇連盟 6月 スタジオ・オーデュボン 6月 オルガン・ワークス 8月 名古屋市文化振興事業団「りすん」 8月 子どもとおとなのオペラプロジェクト 8月 神奈川県演劇連盟 9月 オペラシアターこんにゃく座 10月 CCCreation「秋元松代作品」 11月 まつもと市民芸術館制作作品 12月 瀬戸内サーカスファクトリー 12月 ゆうめい 1月 中村蓉ダンス公演 ほか</p>
通年	複数施設	共催事業	<p>舞台芸術人材の育成に資する催しや国際文化交流に寄与する公演を、他の団体と共同し実施する。</p> <p>3月 かながわパフォーミングアーツアワード ほか</p>

■ミッション「つねに考える」[2事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
12月上旬～中旬	ホール、大スタジオ他	「YPAM - 横浜国際舞台芸術ミーティング 2025」	<p>(メインシーズン)</p> <p>国内唯一かつアジアで最も影響力のある舞台芸術プラットフォームとして国際的に認知されてきた「YPAM-横浜国際舞台芸術ミーティング」は、国際的芸術交流の深化、発展とともに、地域との結びつきを深めていくことを目指している。KAAT は令和7年度も公演プログラムの主会場として劇場各施設を最大限に活用し、多様な作品の上演を行う。</p>
通年	複数施設	「カイハツ」	<p>必ずしも上演を目的とせず様々な創作の可能性を探る場を、演出家・振付家・俳優・ダンサーたちに提供する。数多くのアーティストが出入りし、劇場が常に考える場、豊かな発想を生み出す場となることを目指す。今年度より、参加アーティスト/企画は、公募によって</p>

			<p>行う。(すでに募集を行い、90 企画の応募あり。)</p> <p>また、国内外の戯曲の発掘、情報収集も継続的に行い、今後の企画立案に繋げていく作品のディベロップメント事業としても位置づける。</p>
--	--	--	--

■ミッション「未来につなぐ」[8事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
7月上旬	大スタジオ	KAAT×TJP 国際共同制作作品 「ダンスマラソン エクスプレス」	<p>(プレシーズン)</p> <p>ストラスブール・グランテスト国立演劇センター (TJP) との国際共同制作ダンス作品。振付・演出は、TJP 芸術監督の伊藤郁女。KAAT では、キッズ・プログラム 2023「さかさまの世界」で子ども達の創造力をかきたてる自由な世界が好評を博したアーティストである。本作には、KAAT 芸術監督の長塚圭史もドラマツルグとして参加し、両芸術監督が協働して創造の未来を探る意欲作となる。出演は、日本人ダンサー・俳優と、フランスで活動をするダンサー達がコラボレーションし、日本では多用されるがフランスではそれほど種類のないオノマトペをモチーフに、文化の違いも題材に組み込み、国際共同制作ならではの作品創作を目指す。カイハツでのアイデアから生まれたクリエイションである。KAAT での上演後、フランス各地での上演も実施予定。</p>
10月	ホール	「Carcaça (カルカサ)」	<p>(メインシーズン)</p> <p>海外から同時代性の高いコンテンポラリーダンス作品を招聘し、新たな鑑賞体験の提供を目指す。また、本事業は企業協賛を獲得し実施する。</p>
11月、 令和8年 3月 (調整中)	中スタジオ	KAATx 国立劇場 「つたえつなぐ 『観てよみ解く～ 実演&レクチャー ～』	<p>国立劇場と連携し、古典芸能をわかりやすく紹介する講座を開催する。現代演劇やダンスのアーティストをファシリテーターとして起用し、古典の魅力を観客に紹介するとともに、また現代の舞台芸術に繋げる機会を創出する。</p>

通年	アトリウム	KAAT 開館 15 周年 企画	(メインシーズン) KAAT 開館 15 周年を記念するとともに、長塚 芸術監督の就任第一期 5 年間を振り返る企画 として、これまで展開してきた宣伝ビジュアル を中心とした展示やトークイベントなどをお こない、これまでの劇場の成果とこれから目指 すべき姿を発信していく。
KAAT 人材育成事業 以下の事業を社会連携ポータル部門と連携し実施する。			
年 2 回	調整中	インターンシップ ＜社会連携ポータル 事業＞	現場での実務を通して、公立文化施設のあ り方や、事業制作・劇場運営、または舞台技 術の基本的な業務について実践的に学ぶ場を 提供する。劇場運営と舞台技術の 2 コースで 開催する。
年 2 回予定	調整中	舞台技術講座 ＜社会連携ポータル 事業＞	プロフェッショナルとして活動している舞 台技術者が、専門分野を超えて視野を広げ、 スキルアップする講座を実施する。また、環 境に配慮し持続可能な舞台芸術を考えていく 場として、グリーンシアターに関する講座を 継続して開催する。財団の実施する人材育成 講座の一環。
通年	調整中	大学連携 ＜社会連携ポータル 事業＞	大学や研究者と文化施設が協働し、文化施設 が教育の場となっていく取組みを継続してお こなう。
通年	調整中	リラックスパフ ォーマンスを考える ＜社会連携ポータル 事業＞	令和 5 年度から 3 年計画でリラックスパフ ォーマンス(またはインクルーシブシアターと もいう)の作品制作を目標とし、その 3 年目と して、令和 6 年度に実施したリラックスパフ ォーマンスを取り入れた公演の結果を分析・研究 し、作品制作に向け、検討や試行をおこなう。
通年	調整中	教育機関連携事業 ＜社会連携ポータル 事業＞	県立神奈川総合高等学校舞台芸術科の教育 課程の一部として施設を活用した講座を開催 する。
通年	複数施設	「カイハツ」	(再掲)

(3) 音楽堂

神奈川県立音楽堂は、昭和29年の開館から70年にわたり、県民と共に神奈川県文化発展に貢献してきた。令和7年度も引き続き空間の音響特性を活かした独自性と上質性を兼ね備えたラインアップを展開する。

令和8年以降に計画している海外アーティストとの連携によるオペラ公演の新制作に向け、聴衆の期待と理解を高めるようなプレ講座を開催する。「音楽堂ヘリテージ・コンサート」では、フランスのトップアーティスト2組を取り上げ、音楽堂の音響と歴史性を活かし、世界レベルの音楽体験を提供する。

地域に向けてホールをひらき、次世代との協働・参加を呼び込むことを目指す事業も継続して開催する。クラシックにとらわれずに広く音楽を楽しむ「大人のための音楽堂」は、多ジャンルの音楽家を招聘し、様々な角度からゆったりと音楽に親しんでいただける企画として実施する。58回目の開催となる恒例の「メサイア全曲演奏会」はプロフェッショナルの歌い手に交わり高校生から大人まで混声合唱団を結成、地域住民と協働し文化振興に貢献する。また、従来の表現・思考のスタイルにとらわれない、新しい表現を紹介するシリーズ「新しい視点」では、公募プログラム「紅葉坂プロジェクト」を通じ新進気鋭のアーティストの発掘・輩出を行い、創造に挑みつづける場としての音楽堂をアピールしていく。

「音楽堂アウトリーチ」、「音楽堂人材育成事業」等の取組を通じ、次世代の人材育成や、地域に開かれ音楽文化の振興をはかる公共ホールとしての役割を追求する。

■ミッション「創造に挑む」[1事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
シリーズ「新しい視点」			
6月27日(金)	音楽堂	<音楽堂リコメンドプログラム> ダニエル・オッテンザマー クラリネット・トリオ	令和4年度からスタートした、音楽表現の新しい切り口やレパートリーへの新鮮な視点を拓く試みを続け、実績のあるアーティストを紹介する公演。 ダニエル・オッテンザマー(ウィーン・フィル首席クラリネット奏者)、シュテファン・コンツ(ベルリン・フィルチェロ奏者)、クリストフ・トラクスラー(ピアノ)という幼なじみのオーストリア人アーティスト3人による、あらゆる時代に書かれたクラリネット、チェロ、ピアノのための作品を取り上げるプロジェクト。音楽堂公演のための新編曲作品も予定。

① 7月19日(土) ② 9～11月公募/ 審査 令和8年 3月20日(金祝) ワークインプロ グレス	音楽堂	<公募プログラム> 紅葉坂プロジェクト	① 令和6年度に公募し、沼野芸術参与を委員長とする審査会で採択した団体約2組による公演 (Vol. 4) の実施。 企画委員：湯山玲子、濱田芳通 ② 令和8年度に公演 (Vol. 5) を行う団体2組の公募・審査・採択・ワークインプログレスの実施。企画委員：沼野参与他2名調整中
---	-----	------------------------	---

■ミッション「感動を分かち合う」[2事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
音楽堂ヘリテージ・コンサート ※セット券を発売するなど、シリーズ展開を行う			
10月11日(土)	音楽堂	ジャン＝エフラム・バヴゼ ピアノリサイタル オール・ラヴェル・プログラム	フレンチ・ピアノイズムの第一人者、ジャン＝エフラム・バヴゼが、大作曲家モーリス・ラヴェルの生誕150年のアニバーサリー・イヤーに贈る特別プログラム。名曲「亡き王女のためのパヴァーヌ」、「夜のガスパール」をはじめフランスのエスプリを凝縮した華やかなピアノ曲の数々を堪能できる貴重な機会とする。
11月2日(日)	音楽堂	ナタリー・デセイ(ソプラノ) & フィリップ・カサール(ピアノ)	2025年にクラシックの世界から引退を表明している世界のディーバ、フランスのソプラノ歌手ナタリー・デセイが、盟友のピアニスト、フィリップ・カサールと組んで行う最後の日本リサイタルツアー。

【共催事業】[3事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
ホリデー・アフタヌーン・コンサート			
① 4月12日(土) ② 5月17日(土) ③ 6月1日(日) ④ 7月21日(月祝) ⑤ 9月13日(土) ⑥ 10月18日(土) ⑦ 11月15日(土) 令和8年 ⑧ 1月17日(土)	音楽堂		若手日本人中心の人気・実力ともに優れた演奏家による休日昼間のコンサートシリーズ [主催：神奈川芸術協会] ① 金川真弓 ② 上原彩子 ③ 郷古廉&村上淳一郎&辻本玲 ④ 宮田大&大萩康司 ⑤ トリオ・ジャパン (石田泰尚、

<p>⑨ 2月23日(日) ⑩ 3月21日(土)</p>			<p>西谷牧人、佐藤卓史) ⑥ 小井土文哉 ⑦ 上野星矢&岡田奏 ⑧ 上野通明&北村朋幹 ⑨ エリック・ルー ⑩ 東亮汰</p>
<p>MUSIC DAY 2025 in KANAGAWA</p>			
<p>① 5月31日(土) ② 9月20日(土)</p>	<p>音楽堂</p>		<p>日本を代表する打楽器奏者、加藤訓子がプロデュース・出演する公演。現代作曲家に焦点を当て、クロスオーバージャンルで展開するミニ音楽祭。2年連続で実施。 [主催：特定非営利活動法人 芸術文化ワークス]</p>
<p>その他共催</p>			
<p>① 4月19日(土) ② 4月29日(火祝) 5月25日(日) ③ 6月14日(土) 15日(日) 28日(土) 29日(日) ④ 5月24日(土) 7月5日(土) 令和8年 2月14日(土) ⑤ 8月16日(土) 17日(日) ⑥ 9月21日(日) 11月1日(土) ⑦ 10月7日(火) ～9日(木) ⑧ 11月20日(木) ～23日(日) ⑨ 11月30日(日) 令和8年 ⑩ 2月11日(日祝)</p>	<p>音楽堂</p>	<p>① 第48回全日本おかあさんコーラス神奈川県大会 ② かながわ音楽コンクール(ユースピアノ部門/ヴァイオリン部門) ③ 神奈川県合唱祭 ④ 神奈川フィルハーモニー管弦楽団音楽堂シリーズ「Classic Modern」(全3回) ⑤ 神奈川県合唱コンクール ⑥ 神奈川オペラフェスティバル オペラ/「オペラ・ガラ・コンサート」 ⑦ 音楽堂おかあさんコーラス ⑧ 横浜コンペティション ⑨ 神奈川県名流三曲祭 ⑩ 神奈川県合唱フェスティバル</p>	<p>県域で活動する音楽団体による音楽祭、シリーズ公演、コンクール等で、県民や愛好者に鑑賞、活動、研鑽の機会を提供する。また県の施策に資する共催公演を実施する。</p>

■ミッション「つねに考える」[1事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
適宜各公演前に実施 通年2回 (日程調整中)	音楽堂他	街なかトークカフェ	音楽堂ヘリテージ・コンサートや、次年度に開催予定の音楽堂室内オペラ・プロジェクトの公演に先立つ関連企画として、プログラムの背景や意義、聴きどころなど知識を深めると共に、講師と、また参加者同士の対話や交流の場となることをめざす。 講師：調整中

■ミッション「未来につなぐ」[5事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
11月16日(日)	音楽堂	大人のための音楽堂	20～50代をターゲットに、「音楽堂で大人がしっとりと音楽にひたる1日」をテーマとした、クラシックに限定しないライブイベント。フランス・ジャズ界の最高の荣誉とされる“ジャンゴ賞”で最優秀新人賞を獲得し、最も注目を集めるピアニスト、トーマス・エンコによるジャズ×クラシックのプログラムのほか、2組程度のパフォーマンスを予定。 ホワイエでは、打楽器パフォーマンスが上演時間中継続的に展開され、1日音楽堂にいても飽きない工夫を行う。
12月7日(日)	音楽堂	第58回音楽堂クリスマス音楽会 ヘンデル「メサイア」全曲演奏会	県民が参加する合唱団と神奈川フィルハーモニー管弦楽団による公演。指揮に大塚直哉を迎え、高校生による「未来プロジェクト」も継続する。
通年	音楽堂、 県内各会場 (調整中)	音楽堂アウトリーチ <社会連携ポータル事業>	社会連携ポータル部門と協働し、主に小学校の教員を対象にする「先生のためのアウトリーチ」。県内各地にアーティストを派遣し、先生方にアーティストによるワークショップ型のプログラムの体験機会をつくり、今後の子ども

			<p>もたちへの授業のヒントとなることを目指す。</p> <p>また、新たな試みとして音楽堂を会場に、教科研単位ではなく、教員個人単位で参加できる研修会を実施し、アウトリーチの意義や効果、また実際のプログラムを体験できる場を設ける。アウトリーチと音楽堂での研修を合わせて、年間5回程度実施。</p>
<p>5月24日(土)</p> <p>7月5日(土)</p> <p>令和8年</p> <p>2月14日(土)</p>	音楽堂	小中高校生のための公開リハーサル	<p>共催する神奈川フィルハーモニー管弦楽団の音楽堂定期演奏会開催にあわせ、同オーケストラとの連携により、音楽堂主催で公開リハーサルを実施し、子どもや青少年への音楽体験の提供を行う。</p>
8～9月	音楽堂	<p>音楽堂人材育成事業</p> <p><社会連携ポータル事業></p>	<p>社会連携ポータル部門と協働してインターシップを実施。県民ホール及び音楽堂主催事業を題材にした現場実習を中心にした人材育成を行う。特に大学生・大学院生等が参加しやすい夏休み時期に集中して開催。</p>

2 施設運営・利用者サービス

「安全・快適な利用環境を守るーその先の安心へ」を施設運営・利用者サービスにおける重要課題とし、「あらゆる人々に開かれた場」という視点でハード面・ソフト面を改善していくことによって来館者も利用者も安心して過ごすことができる施設をつくる。

3館は共通して、各館の運営に関する専門的知識の共有や、社会連携ポータル部門との連携により、高いレベルを標準化していく。

管理運営に当たっては、時代に対応した新たな管理運営に取り組み、県の公立文化施設として相応しい良好な空調管理、保守管理の実施、そして清潔で快適な環境を常に提供することで、県民が安心して訪れることのできる施設環境を創出する。

また、利用者サービスの向上に持続的に取り組み、高いホール利用率を回復・維持させる。

<施設維持管理における共通目標>

3館では、施設維持管理においても4つのミッションに基づき、以下に取り組む。

創造に挑む

県民の多くの方々が、芸術文化に触れ、また、芸術活動を行うことができるよう、鑑賞・創造環境の整備やその活動を支援する。

感動を分かち合う

自宅でも職場・学校でもない場所であり、常に身近にある「あらゆる人々に開かれた場所」としての文化施設の機能を創る。

つねに考える

アンケートや利用者の方々からの御意見、内部及び外部からの評価・検証を、会議等で議論し、共有を重ね、文化施設の果たす役割、効果などを常に考察し、次のアクションへ生かす。

県立の文化施設としてインクルーシブ社会の実現やSDGs等の社会課題の認識や課題の解決にも取り組む。

未来につなぐ

地域の拠点の文化施設として、社会連携ポータル部門と連携し、インターンシップ受入れ、県内文化施設職員向け研修会の実施などにより社会と芸術文化をつなぐ担い手を育成する。

適切な施設保全、高い利用率の保持、多様なラインアップの提供によって、世代を越えて、県民の方々に長く愛される施設づくりに取り組む。

(1) 県民ホール

ア 芸術文化に関する施設管理運営事業 公1

令和7年度は休館のため、施設の貸出は行わず、施設内の備品、消耗品等の整理、有効活用、廃棄等を、神奈川県と連携して実施していく。その他休館に伴う手続きを行うとともに、電気設備等の停止などは各供給会社と綿密に打ち合わせの上、県民ホールの事務所の移転予定日までに計画的に行う。

併せて、令和6年度の管理運営及び事業実施にかかる報告書等の作成、並びに令和7年度に予定されている他施設での県域展開事業に伴う業務を引き続き行う。

イ 県民ホールの施設を活用する事業 収2

休館のため、施設を活用する事業は実施しない。

ウ 駐車場の運営 収1

駐車場の運営を的確に実施し、一定の収入確保を目指す。

(2) 芸術劇場

ア 芸術文化に関する施設管理運営事業 公1

開館から14年がたち、ミュージカルのロングラン公演の会場として、多彩な演劇公演が上演される劇場として横浜に定着してきた。認知度の向上とともに比較的長期の利用が安定的に入るようになってきていることから、引き続き専門劇場として運営・技術サービスを安定的に提供していく。

会場案内、舞台技術、警備等の各委託会社と協力し、館全体で、劇場の安全と危機管理体制を整え、快適な劇場空間の維持と利用者サービスの向上に努める。

電子部品等の更新時期を迎えていることから、県と連携をとりながら適切な更新工事等を実施していく。

外国人・障がい者等の来館者対応として、鑑賞サポートの充実、ホームページの改善、職員研修などを順次計画的にハードとソフトの両面から進めていく。

令和7年3月下旬に議決後公布される予定の改正神奈川県立県民ホール条例に基づき定められた令和8年度からの新利用料金について、周知徹底を図るなど適切に対応していく。

イ 芸術劇場の施設を活用する事業 収2

公益目的の利用（演劇・舞踊公演など）が見込まれない場合は、学術会議あるいは講演会などのための利用に提供し、その収益を公益目的事業の財源に充当する。

ウ 駐車場の運営 収1

駐車場の運営を的確に実施し、収入確保を目指す。

(3) 音楽堂

ア 芸術文化に関する施設管理運営事業 公1

令和6年11月に音楽堂は開館70年を迎えた。平成30年から31年にかけて実施された大規模改修では空調設備等が一新されたが、舞台設備や客席等老朽化が著しい箇所も多々あり、職員の運用能力向上を図りつつ、施設の定期点検・保守を継続する。また設置者が定める長期修繕計画の課題洗い出しや見直しを働きかけていく。特に、老朽化の著しい張り出し舞台の利用法についての整理や、建物の雨漏りの改善等の積年の課題を整理していく。

日本でも最も歴史ある公共音楽専門ホールとしての存在価値を周知し、その保存、運用について広くご理解いただく一助として、近年開始した音楽堂へのオンライン小口寄付を継続し、施設長寿命化のための補修費用に充当する。建造物としての価値とコンサートホール（音楽）としての価値をさらに向上させていくことを基本方針とし、安心・安全な施設維持管理、魅力ある事業実施や人材育成に取り組む。

利用対応については、利用者が安心感を持って利用できるよう親切丁寧な対応、社会情勢等の変化にも柔軟に運用できる体制を整え、安心・安全な施設運営を第一に考え、利用者・来館者の満足度向上を図る。

定期的で開催し、人気を博している建築見学ツアーについては、引き続きボランティアグループbridgeと連携し定期的実施する。あらゆる方々に参加していただく見学ツアーを社会連携ポータル課との協働で引き続き継続し、ブラッシュアップを図る。

近隣の横浜能楽堂が長期修繕期間に入り令和8年まで休館するが、能楽堂も含めた県立図書館、青少年センター、横浜市民ギャラリーと紅葉ヶ丘地区活性化のため、5館連携事業「まいらん」を引き続き促進させる。

令和7年3月下旬に議決後公布される予定の改正神奈川県立音楽堂条例に基づき定められた令和8年度からの新利用料金について、周知徹底を図るなど適切に対応していく。

イ 音楽堂の施設を活用する事業 収2

公益目的の利用（音楽公演等）が見込まれない場合は、講演会や研修会などのための利用に提供し、その収益を公益目的事業の財源に充当する。また近年増えてきたグラビアやCM撮影等にも、空き日を活用した利用料収入の確保と建築空間の魅力を活かした活用方法として積極的に館を貸し出す。

3 本部事業、その他事業

(1) 社会連携ポータル部門 公1

ア 社会連携ポータル事業（3館共通事業）

①専門人材育成プログラム、②学校教育へのアプローチ（エデュケーションアプローチ）
 ③あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ、④地域との連携を強化する機能（県域ネットワークプログラム）の4つの柱を中心に、施設の特性を生かしながら、社会と芸術をつなぐ窓口として機能する事業を展開していく。

■ミッション「感動を分かち合う」

開催予定日	会場	企画名(予定)	内容
○多くの方々と感動を分かち合うための「インクルーシブアプローチ」			
通年	芸術劇場 音楽堂 県内施設	鑑賞サポート	障がいやさまざまな要因により文化芸術の鑑賞・参加に障壁がある方々が舞台芸術や美術を楽しむためのサポートを行う。聴覚障がいの方に向けた文字による情報保障、視覚障がいの方に向けた音声や点字、やさしい日本語の活用などの情報保障としての鑑賞サポートや、児童、生徒に向けた招待などさまざまな形でのアプローチを実施していく。芸術劇場、音楽堂及び県内で展開する公演事業において4～5公演を目安とするが、可能な範囲でなるべく多くの公演で実施することをめざす。
○多くの方々と芸術文化でつながる「地域との連携」			
通年	県内施設	県域展開公演	県民ホール、芸術劇場が企画・制作した公演や県内の文化施設と共同制作した公演を県内の施設で実施する。地域の文化施設とのネットワークを強化し、県内の多くの方に公演を鑑賞してもらうことをめざす。鑑賞サポートへの取組の紹介なども同時に行っていく。

■ミッション「未来につなぐ」

開催予定日	会場	企画名(予定)	内容
○芸術文化を担う人材を育てる「専門人材育成プログラム」			
調整中	芸術劇場 音楽堂	インターンシップ	芸術劇場・音楽堂において、各館の特性をいかしたプログラムにより、就業体験の場を提供し、これからの舞台芸術を担う人材を育成することをめざす。
調整中	芸術劇場	人材育成講座	すでに舞台芸術や文化施設運営業務についている人向けに、ブラッシュアップのための講座を開催。劇場運営従事者のための講座、舞台技術者のスキルアップのための舞台技術講座、グリーンシアターに関する講座などを実施する。
調整中	県内施設	人材育成講座	県民ホールと協働し、県内の青少年や大学と連携した人材育成プログラム等を実施。
調整中	芸術劇場	大学連携事業	大学や研究者と文化施設が協働し、文化施設が教育の場所となっていく取組みを継続して行う。
通年	芸術劇場	リラックスパフォーマンスを考える	令和5年度から3年計画でリラックスパフォーマンス（またはインクルーシブシアターともいう）の作品制作を目標とし、その3年目として、令和6年度に実施したリラックスパフォーマンスを取り入れた公演の結果を分析・研究し、作品制作に向け、検討や試行を行う。
調整中	県内施設	社会教育との連携	フリースクールや市民活動支援センター等との協働で、普段音楽に触れあう機会の少ない方々へのアプローチを県民ホールとの協働で立ち上げる。本年は横浜市内ともう1か所にての開催を予定。

○子どもたちと芸術文化をつなぐ「学校教育へのアプローチ」			
調整中	芸術劇場 音楽堂	教育機関連携事業	<p>芸術劇場は、県立神奈川総合高等学校舞台芸術科の教育課程の一部として施設を活用した講座を開催する。</p> <p>音楽堂は、県内の主に小学校の教員を対象とし、教科指導に役立つアウトリーチプログラムを実施する。また、教員個人が参加できる研修会を年5回程度実施し、アウトリーチの意義や効果を学び、プログラムを体験できる場を設ける。</p>

イ 共生共創事業（県からの受託事業）

■共生共創事業（県からの受託事業）

（県の事業者募集に応募すると想定して、今後調整を進めていく。）

事業名（予定）	内容
共生共創事業	<p>県の重点施策である「共生社会の実現」「未病」などの取組とマグネット・カルチャー（マグカル）をクロスさせた舞台芸術関連の事業。県域の文化振興に関するネットワークの形成についても、本事業に関連して進めていく。（8年目。平成30年度から開始の事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニア劇団3箇所 通年実施（横須賀、綾瀬、小田原） ・シニアダンスワークショップ1件 通年実施（横浜を主体に県内各地） ・インクルーシブ事業（4件程度） ・その他広報業務等 <p>※神奈川県の実業説明文 事業理念 神奈川県では、「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与するため、文化芸術の分野においても、「ともに生きる ともに創る」を目標に、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まですべての人が、舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」を実施しています。</p>

(2) 地域の芸術文化財団への業務協力 公1

当財団は、公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団から、当該財団が鎌倉芸術館の指定管理者の指定を受けるにあたり業務協力の依頼を受けた。当該財団への業務協力は、県域における芸術文化の振興の一助となることから、当財団は、令和4年4月から、鎌倉芸術館に対する管理運営協力として、①管理運営における人員出向等の協力、②主催事業における企画制作作品の提供等を行っている。

第4年度目にあたる令和7年度は、引き続き鎌倉芸術館に対する業務協力をを行うこととし、但し、①「管理運営における人員出向等の協力」は行わず、②「主催事業における企画制作作品の提供等」を行うこととする。

なお、業務協力の期間は、令和4年度から5年間で1期として、最大2期までを予定している。

(3) 芸術文化に関する情報の収集提供 公1

情報誌「神奈川芸術プレス」を年2回（9月、3月（予定））発行する。当財団の主催事業のみならず、広く県内外で実施された芸術文化や文化施設の取組等を紹介することで、県民に芸術文化への理解をより深め、親しみを感じてもらえる内容とする。

公演・催物だけでなく、芸術文化と社会の架け橋になるような特集テーマを設定し、人材育成、社会連携の取組なども含めた幅広い観点で、紙の冊子ならではの読み応えのある記事を制作していく。また過去号の読者アンケートを通して県民のニーズを盛り込めるよう取り組む。冊子と同内容のウェブ版も引き続き展開し、幅広い読者層にアプローチできるよう認知度向上に努める。

(4) かながわメンバーズの運営 公1

会費無料のインターネット会員制度「かながわメンバーズ（愛称KAme:カメ）」を運営し、メールマガジンによる公演案内やチケット発売情報の配信、会員先行チケット予約などのサービスを提供する。併せてチケット購買データを集積し、会員ニーズに合わせた効率的かつ戦略的な広報展開とチケット販売促進のための情報を提供するなど芸術文化事業を支援する。

また、会員情報を適切に管理し、情報の安全性を確保し、効率的な運営を行う。

(5) チケットかながわの運営及び団体販売等の促進 公1

主催事業の票券管理補助およびチケット販売、また、共催・提携・貸館公演のチケット販売受託を行うため、チケットセンター「チケットかながわ」を運営する。県民ホールの休館（チケット販売窓口の休止）と県域への事業展開に向けて、より効率的な運営に努めるとともに、インターネットによるチケット販売については、常に利便性を高めるようウェブサイト改善のほか、高齢者などインターネットでの購入を望まない利用者に対し

でも電話・窓口で丁寧な対応を行うなど、利用者それぞれの状況に寄り添ったサービスを提供し、利用者満足度を向上させる。

チケットの団体販売については、各種団体等への斡旋販売、福利厚生会員組織向けのインターネットを活用した販売を継続する。

(6) 資金調達活動 公1

ア 文化庁等からの補助金・助成金の確保

文化事業、広報活動及び人材育成等の充実を図るため、文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」等の補助金、一般財団法人地域創造をはじめとした民間の助成財団等からの助成金の確保に積極的に努める。また、独立行政法人日本芸術文化振興会の調査・意見交換等を通して、文化事業の水準向上に繋げるとともに、同様に助成を受けている他劇場や関係機関等との連携を強化し、制度に関する情報収集を行っていく。

イ 賛助会員制度の運営及び各種寄付金の獲得

現賛助会員から継続的な支援をいただけるよう、支援者向け限定イベントの実施等、財団と支援者の関係を深める取組み等を実施する。また、新規会員獲得のため、ホームページやSNS、主催公演時等での賛助会員制度・寄付制度の紹介に積極的に取り組む。

さらに、1,000円の小口からクレジットカード決済が利用可能なオンライン寄付サービスによる寄付募集を促進する。館ごと（芸術劇場・音楽堂）に募集窓口を設定することで寄付金の使途を明確にし、寄付金を充当した事業の報告を写真とともにホームページに掲載するなど丁寧な情報発信を行うことで、支援者の拡大を目指す。

他にも、特定の公演や事業に対してご支援いただく個別協賛の働きかけ、遺贈寄付の広報に努めるなど、財団の活動をアピールしながら幅広い層からの支援獲得を目指していく。

(7) 管理組合の運營業務受託 収2

芸術劇場及び日本放送協会横浜放送会館合同施設全体の防災管理業務並びに共用部の敷地・建物の清掃、保全、保守、修繕、植栽、じん芥処理及び消毒業務等の施設維持管理業務を受託する。

合同施設アトリウム・レストラン・カフェの利用調整業務を行う。

(8) 法人本部の運営

ア 法人本部の運営 法人

理事会・評議員会等の運営、職員の資質向上のための研修の実施、事業評価の実施、その他公益法人の運営に関すること（総務、人事、会計、県との調整等）を行う。また、情報システムの復旧と適切な管理体制の構築に取り組むとともに、情報セキュリティ、個人情報保護、コンプライアンスに係る研修等を積極的に行い、5年目（最終年）となる第4期指定管理業務を、引き続き着実に遂行していく。

イ 寄付講座の実施 公1

本部事業として、昭和音楽大学の授業「芸術文化と社会／芸術運営論」に出講（寄付講座として受託）し、当財団職員が劇場運営や事業等について分担して講義を行う。（計2コマ予定）

ウ 事務室の移転 公1 法人

県民ホールの休館に伴い、令和7年度中に、県民ホール施設運営課、事業課、本部総務課、経営企画課、社会連携ポータル課、監査室、チケットかながわの事務室を移転する。